

3月に向けて

代表取締役 三田雅憲

少しづつ寒さが和らぎ、春に向けて季節が進んでいるように思えます。今月も「前向きモチベーター」の和田勉氏から学びたく思います。

「会社は社会にとってどのような存在なのか？会社は売上をあげて税金を納める事で社会を支えるという役割を担っています。経営を続けていく上では、利益は必要不可欠であります。ただし、利益を目的にしてしまうと長続きしません。つまり、企業が本来、社会に果たすべき役割は「価値(必要とされる商品やサービス)を提供し続けること」なのです。顧客の課題や要望を解決し、価値のある商品やサービスを届けることで売り上げや利益が生まれます。つまり、利益は社会貢献の結果として得られるものなのです。この順番を理解してください。この会社は信頼できる。この会社なら挑戦してくれる。この会社だから任せてお願いしたい。この会社だから応援したい。このように選ばれ続ける企業・会社だけが、長く社会に必要とされるのです。その基盤となるのが、日々の誠実な経営姿勢でもあるのです。派手な施策よりも約束を守り、丁寧な対応や仕事を積み重ねること。取引先や仕入先そして社員や同僚を大切にする姿勢、これらが企業の信頼を形づくり、「どう売るか」より「どう信頼を積み上げるか」を考えて下さい。また、会社が公器である以上、BS(財務諸表)に表れない価値こそが経営の土台となります。「取引先」「仕入先」「金融機関」「地域社会」「社員」その一つの関係性の中で、社会の「評判」は静かに形作られています。会社の価値は目先の効率や損得だけではなく、時間をかけて築いていった善悪の評価でもあります。特に、時間をかけて築いた評価は簡単に揺らぐことはありません。誠実さの積み重ねが会社を長く支え続ける見えない力になります。ですので、「この会社はお客様を含め関係者の役に立っているのか？」「社会にどんな価値を提供しているのか？」を常に問い続ける姿勢を持ってください。」と述べています。

当社がお客様や仕入先、金融機関、地域社会そして社員諸君から選ばれる会社になり続ける事。これは、「社会に対して価値を提供できているのか、役に立っているのか」を問い続けなければならないと和田氏は述べておられます。とかく、私も見失う部分でもあります。4月には夢と希望そして一抹の不安を持って若い社員が入社してくれます。自分の入社した会社は自己実現し、安心して勤められるだけでなく、社会に対して必要とされる会社なんだと彼らに理解してもらえるように私も含めて、社員皆さんが伝え教えてあげてほしいと思います。2026年に入っても仕事が堅調に入荷しております。技術力向上と生産性の向上そして、営業力の向上と総務力の向上で盤石な体制で来期を迎えていけるように頑張っていきましょう。